第47集:45-46

医王山登山道における能登ヒバ材工作物のクマ被害について(中間報告)

宮崎顕治

石川県白山自然保護センター

Japanese black bear (*Ursus thibetanus japonicus*) damage to Noto Hiba woodwork on the Iouzen mountain trail (interim report)

Kenji MIYAZAKI

Hakusan Nature Conservation Center

はじめに

登山道などの山地に設置する標柱・案内板など木製の工作物は、ペンキ塗装などすると、塗布等した材料に反応したツキノワグマ(Ursus thibetanus japonicus)(以下、クマ)にかじられる被害にあうことが以前から知られている(渡辺ほか、1970;環境省自然環境局、2007)。

石川県でも、クマの主な生息地である白山周辺で工作物被害が度々観察されており、金沢市東部に位置し富山県境に接する医王山(最高峰奥医王山:標高939m)でも、県立自然公園として指定された1996年以降にビジターセンターなどの主要施設の整備が始まっているが、防腐処理したスギ材工作物などが同様に被害を受けている。

医王山では、2008年頃からは、スギ材工作物の被害状況、材の耐久性の高さなどから、無垢の能登ヒバ(アテ、ヒノキアスナロ、以下ヒバ)材を使用することが一般的となってきており、環境省の自然公園等施設技術指針でも「使用を検討する」と記載されている(環境省自然環境局、2020)。

そこで、医王山での近年設置された無垢の能登ヒバ工作物の被害状況を調査するとともに、無垢のヒバ材を登山道周辺に実際に配置し、被害が発生するかどうか再現性を調査した。

被害状況調査

2020年4月28日に医王山中心部の各登山道での調

査を行った。2011年設置のヒバ材の道標 (ϕ 150mm, L=1050mm) の小口部分のみ白く水性塗料を塗った材での被害が見られ、特に2016年設置の無垢のヒバ材道標 (2011と同規格) 6 基の全てで、



写真1 しがらくび~覗間ベンチのクマ被害



写真 2 医王の里・田島分岐付近道標のクマ被害

ベンチ(H=420mm, t=60mm, L=1800mm)13基中8基で被害が確認された(写真1,2)。被害エリアは医王の里付近から地蔵峠までに及び、被害程度も大きかった。黒色の毛が付着した工作物もあったことからクマによるものと推測された。なお、同時期に同エリアの西尾平駐車場で再塗装したセランガンバツ材(南洋材)は無被害であった。

再現性調査

2016年以降は、医王山での木製工作物の設置が無いため、同様の被害が2020年でも起きるかどうか再現性を調査するため、ヒバ材の端材を調査材料(以下、材料)として登山道周辺に配置することとし、2016年設置物の被害確認エリア内の3箇所を調査地点として選定した(図1)。

2020年 5 月27日,材料(15cm角程度, $L=60 \sim 80$ cm程度)を 1 箇所に 1 つずつ配置した。位置は登山道から見える程度の林内で,状況に応じて土中に建込むか,または木の幹に結束用バンドで固定し,配置した(写真 3)。

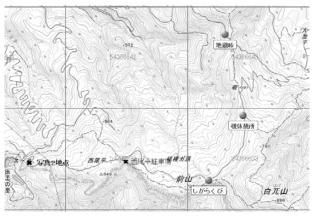


図1 調査地点

出典:国土地理院ウェブサイト

その結果、2020年 7 月、9 月では材料に変化が見られなかったが、同年11月 5 日に地蔵峠の材料がかじられたことを確認した(写真 4)。

結束していたバンドは外されていたが損傷は無 く,材料は下部からかじられていた。また,残され た木くずは少なかった。

再現性が確認されたことから、同年11月12日、地 蔵峠にのみ自動撮影カメラ(以下、カメラ)を設置



写真3 地蔵峠材料設置時



写真 4 地蔵峠被害発見時

し、また、噛み跡のあった材料の反対側の幹に樹種 比較のためスギ材(L=40cm程度、幅25cm程度、 厚さ10cm程度)を配置した。

同年12月11日にカメラを回収したが、撮影のため 笹・灌木類を伐った影響か、クマは撮影されなかっ た。

次年度以降は,医王山中心部以外などで被害調査 を拡大し,中心部では,スギ材の設置及びカメラ設 置台数の増を行う予定である。

引用文献

渡辺弘之・登尾二朗・二村一男・和田茂彦(1970) 芦生演習林のニホンツキノワグマ:とくにスギに与える被害について.京都大学農学部演習林報告41,8.

環境省自然環境局(2007)クマ類出没対応マニュアル-クマが山から下りてくる-,34-73.

環境省自然環境局自然環境整備課(2020)自然公園等施設 技術指針.長寿命化 3.